

VIO脱毛って何だ イマドキ女子の身だしなみ、なのか

高重 治香 2014年9月5日05時55分



TBCグループでは、この装置を使い、脱毛する部分に光をあてる。写真は腕の脱毛のイメージ＝東京都渋谷区

自分の女性器の3Dプリンター用データを作りダウンロードさせたとして、わいせつ物頒布等の疑いで7月、警視庁に逮捕され、釈放されたアーティストろくでなし子さん（42）。性器に着目したきっかけは「VIO（ブイアイオー）脱毛」だったという。

■脱毛の歴史、古代から

「VIO」のVは下腹部、Iは性器周辺、Oは肛門（こうもん）周辺。各部位の形をアルファベットで表している。

30歳前後の読者が多い女性誌「steady」（宝島社）9月号の読者アンケートでは、55%がアンダーヘアを処理

し、うちVを処理している人は90%、IとOが各50%。処理している人のうち25%がサロン利用者だった。

ろくでなしさんは「自分は毛深い」と思い込んでVIO脱毛をしたという。「友達と比較したり、気軽に話題にしたりできなかったのが、思い込んでしまった」。毛がない方がすっきりして楽になる、という期待もあったという。

脱毛の歴史は古代にさかのぼる。紀元前3千～4千年ごろから、地中海沿岸地方では毛をひもで挟んで抜く脱毛が行われた。エジプトではクレオパトラが脱毛剤を使っていたという。

日本スキン・エステティック協会の手塚圭子理事によると、日本でも江戸時代の浮世絵にはすでに女性が顔や襟足をそる様子が描かれているという。1960年代、洋装が普及し、女性の社会進出とともに、わき毛の処理が流行。70年代にエステサロンなどで脱毛器による処理が始まると、脱毛の範囲は全身へと広がり、「身だしなみ」としての脱毛が定着していった。

■恋人の目を意識する女性も

VIO脱毛の流行の発信源は脱毛先進国・米国だ。日本でも人気があり映画にもなった米ドラマ「セックス・アンド・ザ・シティ」では、主人公らが当たり前のように脱毛しているのが話題になった。

その後、日本でも毛を1本ずつ処理するのではなく、広い範囲を処理でき、従来より価格が安く痛みも少ない光脱毛を採用するエステサロンが増え、流行を後押しした。脱毛サロン「ミューゼプラチナム」は2009年にVとIとOをまとめて処理できるコースを開始。TBCグループも、11年に始めた脱毛のブランド「エピレ」でVIO脱毛に力を入れ、利用が伸び続けているという。エピレの場合、価格はVIO全体の処理6回とワキ脱毛通い放題のセットで、実質4万5800円（税抜き、初回限定）などだ。

同グループ広報室の酒井由香子さんによると、VIO脱毛は20～40代の利用が多い。「水着や下着のファッションを安心して楽しみたい」「蒸れずに衛生的」などの実用的な理由のほか、恋人の男性の目を意識する女性も多いという。男性の中には、毛を処理しないことを不衛生だと感じ、自分も毛を処理するような強い清潔志向の人もいるからだ。

■「徹底すべし」は息苦しい？

むしろ、同性へのアピールという指摘も。女性誌でVIO脱毛を特集したことがある女性編集者は「VIO脱毛をする女の子たちは『体に気をつけているちゃんとした自分』を同性にアピールしがっているのでは」と感じる。わきの脱毛は珍しくないが、「普段見えないVIOまで磨いていれば、女子力の高さが証明できる」というのだ。

美容の心理に詳しい谷本奈穂・関西大教授（文化社会学）は、VIO脱毛は自己管理を隅々まで徹底すべしという風潮の表れと見る。「外見を変えたいと思う人にとって、自分の身体を管理できる余地が広がることは救いだ。でも、『脱毛をしないのは身だしなみがなっていない』という発想が広がり、自分で見えない肛門の毛まで管理して当たり前という美意識が固定されるような社会は、息苦しい」（高重治香）

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © 2014 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.